

定期総会で新体制決まる

育友会59年の歴史で初の女性会長



↑ 就任の挨拶を述べる東平豊三平成29年度育友会長、右は日高義博理事長



↑ 退任の挨拶に立つ本部役員。出雲高志平成28年度育友会長は「子供を支援するために、親同士が仲良く協力し合う組織、まさにそれを実感できた4年間だった」と述べた



↑ 挨拶を述べる佐々木重人学長

6月3日（土）に生田キャンパスで開催された定期総会において、平成29年度育友会長、副会長及び監査役が選出された。新会長は東平豊三さんで、育友会59年の歴史で初の女性会長が誕生した。東平さんは就任の挨拶で「名前だけ見ると男性と間違われる」と会場の笑いを誘いつつ、「育友会は来年60周年を迎える。人で言えば還暦であり、干支が一巡する新たなスタート。皆様にご協力いただきながら、一年間精一杯頑張りたい」と会員に呼びかけた。

そのほか定期総会では平成28年度育友会事業報告及び収支決算報告、平成29年度育友会事業計画及び収支予算について審議し、出席者の承認を得た（詳細は16～23頁に掲載）。

第1回全国支部長会 シブコン、支部活動について 意見を交わす

定期総会後に行われた全国支部長会では、まず支部懇談会開催における注意事項や支部活動交付金の取り扱いなどについて事務局が説明。続いて、新たに就任した東平育友会長を議長に支部活動について意見交換を行った。

親の関心が高い就職支援については、毎年就職座談会を開催している群馬支部や、自治体担当者のUターン就職講演を支部懇談会に盛り込んだ札幌支部などの事例も報告された。なお専修大学では17府県1市の自治体と就職協定を結んでおり、該当支部では支部懇談会で自治体担当者による講演なども予定されている。



↑ 左から加藤淳子事務長、庄菊博主任教授、東平豊三育友会長、湯浅敏明常務理事



↑ 支部長から様々な意見が出された